

太陽の子

2025年 4月 No.191

春 の 号



発 行

日立市助川町5-14-8

TEL (23) 2620 FAX (33) 9150

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール npo@taiyonoie.com

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立太陽の家支える会



太陽の家利用者さんがしいの木学園の職員と利用者さんに協力してもらいグループ活動で陶芸体験、ランプシェードを作りました。線を引いたり好きなかたちをくりぬいたりしました。この後は素焼きをして釉薬につけて、出来上がりが楽しみです!! (太陽の家)

トットちゃんから『福祉の街日立』へのメッセージ

特定非営利活動法人 日立太陽の家 理事長 小 又 克 也

今から四十年以上も前に書かれた自伝的物語『窓ぎわのトットちゃん』。

好奇心が旺盛で話し好きな小学一年生のトットちゃんは、落ち着きがないことを理由に小学校の転校をすすめられます。

『おたくのお嬢さんがいるとクラス中の迷惑になります。』の言葉を受けてのことでした。

転校先の校長先生は、トットちゃんに『君は、ほんとうはいい子なんだよ。』と優しく語りかけたとのこと。

落ち着きがないのではなく、これはいろんなことに興味があるからなのだとして理解してもらい、ひとつひとつの興味を実践して、のびのびと成長していったとのこと。

同じトットちゃんを見て、「落ち着きがない子」と評価をする大人と、「色々なことに興味がある子」と評価をする大人。子どもの時に誰に出会えるのかで、まさに人生が変わるといえる瞬間かもしれません。

トットちゃんが通っていた小学校には障害を持った子どももみんなと同じように通っていたそうです。しかし、先生たちは障害を持った子どもたちを「手伝ってあげなさい」とは一度も言わなかったそうです。

他の子どもたちも、障害児・健常児という区別はなく、「みんな一緒に同じことをやる」というスタイルが当たり前だったようです。

障害もひとつの個性として受け入れられ、なにも特別なことはなかったのではないかと思います。

さてさて、現代に目を向けてみると、色々と障害の研究も進み、克服のためのカリキュラムも充実し、安心できることもたくさんできてきたかと思えます。しかし同時進行で、支援方法の専門性の高まりは、専門家を生み特別な人だけが支援を担う、これは個々への適切な支援というプラスを生み出す一方で、支援を受ける子、今までの仲間たちとは同じ空間を共有できなくなってしまうという悲しい現実を生み出してしまったようです。

これはどうしようもないことなのか……いやいや『福祉の街日立』なら何かできるかも知れない。

個別支援のプラスを確保しながら仲間たちとの空間を共有する、そのような新しい仕組み、トットちゃん方式から更に一歩進んだ『福祉の街日立方式』ができれば、みんなが笑顔になれるだろうと、そんなひとり思いをしている今日この頃です。

新年度を迎えての抱負

サービス管理責任者

としての5年間

日立市太陽の家 サービス管理責任者

富岡 昌弘

私が太陽の家のサービス管理責任者の任を受けて6年目になります。6年目の今年は、「やっぱり太陽っていいよね」と思ってもらえるような一年にしたいと思っています。なぜその思いに至ったかという、今までの5年間の振り返ることとなります。

1年目は、前任者達からのバトンをとる落とさないように1日1日を必死に過ごし、2年目には少し周りが見えるようになり、3年目になるとサビ管としての自覚と責任を感じるようになり、4年目は、支援員と看護師の体制が大きく変化し、医ケアの利用者にも支援員が関わる様になった。変革の年になりました。5年目の昨年はチャレンジの1年で、ひまわり学園の利用者との交流。車イス利用者の送迎の一元化。さらに日立守る会さんの関プロ参加やコロナ禍以降初めての全員参加型の楽しめ会の開催と盛りだくさんでした。

そして今年の6年目にやっとなかなか目に目を向けられる状況と立場になった事から「太陽っていいよね」と誰からも思ってもらえるような1年になるよう精一杯努めていきたいと思っています。

「いつもの」から

「あたらしく」

日立市ひまわり学園 サービス管理責任者

佐藤 美沙

みなさんはコロナウィルスのワクチンを何回接種しましたか？たぶん私は4回までかな……もう何回まで接種したのか覚えていません。

「コロナ」で私たちの生活はだいぶ変わってしまいました。一年中マスクの生活。私の娘は顔がでることが恥ずかしくマスクがないと落ち着かないと言っていました。

そして食事です。会話をしながら楽しむはずの食事が黙食に。ひまわり学園での生活の仕方はどうしたらいいのか悩みました。支援員みんなアイディアを出して食事に使うパーティションを作りました。みんな嫌がるかなと思っていました。が、利用者さんは一人もおらずスムーズ

に給食を食べてくれました。マスクも練習をすることでつけることができる利用者さんはたくさんいました。変化が苦手な利用者さんはたくさんいるはずなのに、みんな受け入れてくれました。最初からできないだろうと決めつけるのは良くないですね。何事もやってみるのが大事と教えられていたように思います。

ひまわりでは少しずつコロナ前の生活に戻しています。いつも変わらない生活の「いつもの」ではなく、新しい生活を求めた「あたらしく」をめざしていきたいと思っています。みんななら大丈夫！そしていつも協力してくれてありがとうございます！

新たな挑戦

日立市いの木学園 サービス管理責任者

武藤 桂子

出産・育児休暇を終え、仕事に復帰してから一年がたちました。育児と仕事の両立は初めてのことで、不安もありました。しかし、たくさんの方々の協力もあり、なんとか両立することができた。と実感した年でもありました。そのこともあり、新年度にサビ管に戻ることに不安はありませんでした。更に、園

芸班での活動もするという新たな挑戦も始まりました。花を育てるための知識も経験もない私が何をやるか。花を育てるための知識を得るとともに支援方法を考えていこうと思いました。また、寄せ植え事業の配達にも関わるようになり、配達先で綺麗な状態の花を見ると、とても大切に育ててくださっていることが伝わってきます。それを持ち帰って、利用者さんに伝えていき、作業にも活かしていきたいです。そして様々な方に綺麗な花をお届けできることを一緒に喜び合えることが楽しみにもなりました。園芸班を中心に関わりながら、サビ管として、利用者さんにとって必要な支援をしていきたいです。よろしくお願いします。

日々、そして

これからのこと

日立市母子療育ホーム
児童発達支援管理責任者

堀江 浩子

春です。母子療育ホームでは、高等部を卒業し、社会人としての一歩を歩み始めたなかまがいます。大きなランドセルを背負って学校に通い始めたなかまがいます。新しい環境に向かって進むことを決

めたなかまがいます。場所は違いますが、ぐっと地面を踏みしめる音が聞こえてきます。背筋を伸ばして真つすぐ前を見つめる瞳が輝いて見えます。春の息吹と共に、ここから大きく成長していく姿が目につかびます。抱えている不安は一緒に背負い、一つひとつの喜びを大切にしながら、それぞれの歩みに寄りそっていきたくと思っています。

母子療育ホームには、保育士や看護師、介護福祉士、社会福祉士やPT・OT・STなどのリハビリ職員もおり、様々な視点からお子さんの支援を考えることができます。とても心強いと感じます。

今後、この強みを活かして、子どもたちの成長を皆で支えていきたいと思っています。また、子ども一人ひとりが持っている強みや、お母さん同士の繋がりを大事にしなが、この暖かい場所を守っていきたくと思っています。



変わらぬに想うこと

日立市共同生活援助施設
管理者兼サービス管理責任者

井下 敦夫

G Hも早や6年目に入り、あつという間に月日が経っている実感します。新年度の抱負として、ずっと変わる事なく想い続けている事は「五年、十年先を考えた（想像した）支援をしていく」という事です。

本で読んだことわざで「地獄への道は善意で舗装されている」

意味は、周りが良かれと思つてやっていた事が実は本人の持つている力を駄目にして最後（将来）には、本人一人苦しみや苦労だけが待っているという意味です。私達は寄り添う意味をはき違えないようにその人がプラスになる先を見据えてのハートのあるブレない支援を続けていきたいと思つています。

すぐに結果が出ない先の支援ですが、あの時からやつておいて良かったと感じてもらえるような支援をしていきたいと思ひます。映画の名セリフで「タフでなければ生きていけない。優しくなければ生きていく資格がない」そんな職員を目指し、今年度も熱い男で行きたいと思ひます。G

H職員全員笑顔を絶やすことなく業務に励みますので本年度もどうぞよろしくお願い致します。

『居宅』つて

何をするところ？

日立太陽の家居宅介護事業所
サービス提供責任者

河合 直子

「日立太陽の家居宅介護事業所」は新年度も変わらず、利用者さん・親御さんからの依頼に合わせた様々なサービスを提供していきたいと考えております。『居宅』つて何をするとところ？と思つている方もいらつしやると思ひ、かいつまんでサービスの種類と内容を紹介したいとおもひます。

（重度訪問介護）の多くは、

外出先の支援を行い、時には居宅に来て給食を食べ入浴して（入浴しない方もいます）居宅で過ごし御自宅にお送りします。（通院等介助）は、定期的な通院の付き添いや、緊急時の受診の対応。（家事援助）は、代理で病院や薬局に薬をもらいご自宅へお届けします。時には利用者さんの描いた絵画作品を額縁にはめ、その作品を展示会場まで搬入・搬出の依頼をうけたりすることもあります。（身体介護）は、ご自宅で親御さんに

代わつて見守りや、自宅で入浴介助を行つたりします。その他に（日中一時）（移動支援）などで関わらせていただく事もあります。利用者さんにとつて、安心でき楽しく穏やかに過ごせる場所でありたいと思つております。

これらのサービスは、利用者さん・親御さんのご理解とご協力のおかげもありまして日々の居宅サービスが成り立つております。いつも柔軟な対応に感謝しております。『居宅』つてこんなことをしているところです。

みんなと力を合わせて

日立太陽の家相談支援事業所
管理者相談支援員

横田 寿子

「初めまして」とお会いしたのは二、三歳の可愛い泣きべそ顔と若いお母さんの奮闘している顔、「どんなことを話したらよいのかしら」と相談員の私達を前に思つたことでしょう。幼稚園、学校、社会に出てから、自立生活、地域でみんなと生活する。希望する居心地の良い生活とはどのような生活でしょう。人には個性があり、幸せの感じ方もそれぞれです。「どんな生活を望んでいるのかなあ。」「どんなお手伝い出来るのかな」

「今を、少し先を、何年後は、どうしているのかなあ。」と考えます。相談員が関わる方々は、小さいお子さんから還暦を過ぎた方、ご本人をはじめ、ご両親や兄弟、祖父母、病院や学校、通所、入所事業所、訪問の方等と年齢層や関係者、職種等の幅が広いです。みんなで力を合わせながら幸せになつていく様子をたくさん見てきました。迷つたときには、再度みんなの力を借りて考えていく。そうして、時間がかかつて望む生活に近づいていく努力はたくさん協力者がいるから頑張れるのだと思ひます。たくさんのお会いに感謝し、パワーをもらいながら、それぞれの幸せのため、寄り添いたいと思ひます。

笑顔が続きますように

給食部 矢吹 順子

新しい年度がスタートしました。木々の芽吹きやまぶしい日差し、吹く風に春らしさを感じるこの頃です。入荷する野菜も色鮮やかでみずみずしくフレッシュです。春はともウキウキした明るい気分になります。

給食部もここ数年で少しずつ変化し、今は若いメンバー

が中心になつて仕事をしてくれています。取り組んできた献立作成もひとつのサイクルが出来上がりつつあり、より安全で質の良い美味しい給食を今年度も届けていきたいと思ひます。昨今のお米に代表される異常なほどの物価高騰を受け、給食部でも仕入れ先の見直しなど皆様に協力を頂き、無駄が出ないように日々、実数に合った丁寧な発注を心がけてきました。法人の理解もあり今までと同様のものを何とか出すことができています。

「食はいのち」とよくいわれます。人生の大きな楽しみであり生命をつなぐものです。これからも豊かであつてほしいと願ひます。

世界を見渡せば一日に三度食事を摂っている人はおどろくほど少ないそうです。戦争や自然破壊、災害、貧困など明日が見えない不安定さの中でその日、その日を必死に生きている人はどれほどいるのでしょうか。

せめて、ちよつと立ち止まつて、今こうして食事ができることに感謝しなければと思ひます。そして笑顔がずっと続きますように祈ります。



新旧バスの入替がありました。長年お世話になったバスともお別れ、いろんな所へ行った思い出がよみがえります。新しいバスでもお出かけするのが楽しみです。
(ひまわり学園)



誕生会をしました。「おめでとう!」「ありがとう!」
素敵な笑顔にたくさん会えました。

(母子療育ホーム)



高校を卒業しました。長年通った母子療育ホームも卒業です。新たなスタート、いろんな事にチャレンジしたいと思います。
(母子療育ホーム)



サインの注文が入りました。心を込めて磨き上げます。
素敵な思い出ができる場所になりますようにと願いながら。
(しいの木学園)

※写真撮影のためマスクをはずしています

お知らせ

◎二〇二五年度

NPO法人日立太陽の家

利用者総数 三百八十五名

男性 二百十六名

女性 百六十九名

日立市太陽の家

総数 十五名

男性 六名

女性 九名

日立市ひまわり学園

総数 二十八名

男性 十八名

女性 十名

日立市しいの木学園

総数 十九名

男性 十五名

女性 四名

日立市母子療育ホーム

総数 三十三名

男性 十八名

女性 十五名

日立市障害者共同生活援助施設

総数 八十三名

男性 四十八名

女性 三十五名

日立太陽の家居宅介護事業所

総数 四十八名

男性 二十一名

女性 二十七名

日立太陽の家相談支援事業所

総数 百五十九名

男性 九十名

女性 六十九名

ご寄付ありがとうございます

〇次の方から寄付を頂きました
(敬称略) 十二月〜二月

黒澤弘明

一般社団法人親切会関東支部

日立厚生医院・嶋崎陽一

とく名 澤島供弘・京子

今井和男

〇次の方から物品の寄贈がありました
(敬称略) 十二月〜二月

椎名将光 前田勝子

村田啓子 小林修

大森健二 金澤博美

★ピッピコンサート
スタッフ募集★

歌が好き、楽器が得意、手話や舞台に興味がある、たくさんの人達と交流してみたいなどお気軽に問い合わせください。お待ちしています。

問い合わせ先

Email: pippi@taiyonoie.com

TEL 0294-87-8255

FAX 0294-21-1203

編集後記

新年度の始まりですね、新たな気持ちでいろんな事にチャレンジしてみるのもいいかもしれませんね。(K記)